

「3000円の年貢を納めて村民になつて」と呼びかける、秋田県民の「村」が注目を集めている。古民家の保全をきっかけに、地方に第2の故郷を持ってもらう仕組み。開始半年で1千人が参加し、様々なイベントで村は訪問者でにぎわい、移住する人も出始めた。西日本に別のシェアビレッジをいかに構想も進んでいる。

秋田・五城目に「私の村」

地域で 克つ

秋田市から車で約1時間、人口1万人の五城目町（人口1万5000人）にある古民家が舞台だ。人口が年間2000人ペースで減る過疎の町。観光ボスターにも登場した築133年のかやぶき屋根の古民家は管理する人もいなくなり、解体が検討されていた。

補助金頼らず

この話を聞きつけたのがコメ販売の武田昌大さん（30）と、ベンチャー企業を起業した丑（う）田俊輔さん（31）、若手農家の松橋拓郎さん（29）。同町やその周辺でIT（情報技術）を仕事に活用する共通点か

古民家 軸に村民1100人

「年貢」3000円で第2の故郷

全国から「村民」が集うシェアビレッジ

寄合＝都市部で開く交流会
年貢＝年会費3000円

修復・維持に活用
移住しようかなあ

シェアビレッジの核となる古民家（秋田県五城目町）

一揆＝お祭り
里帰＝村を訪れる

古民家で開いた忘年会（11日）



5月に「開村」を迎えた。これまでに首都圏でネット上で資金を募る6回、近畿と四国で各1回開催。今月11日には東京と五城目の会合同士をけが大きな特権だ。村民はネット中継で結んだ。現在、村民は20〜40歳代を中心に1100人を超え、関東在住者が6割を占める。こうした仕組みと実績が評価され、今秋、日本デザイン振興会（東京・港）のグッドデザイン賞の特別賞にも選ばれた。

村民から移住者も現れた。8月から古民家の管理人を務める半田理人さんは五城目町に隣接する井川町の出身。栃木県で大学職員をしていたとき、交流イベントなどに積極的に開き、町外から訪れる人は年間約4000人に達している。

官民で人を呼び込むなか、武田さんは「人が集まる仕組みづくりを広げ、全国各地に「村」をつくりたい」と語る。全国の古民家を村に見立て、各地の都市住民が手軽に自分の田舎を持てるようにする。すでに西日本では、都市と地方の新たな連携を目指す。

西日本にも村を

武田さんは「帰省する田舎を持たない人が、第2の故郷と考えてくれる例もある」と話す。8月には一揆と呼ぶ夏祭りを行い、地元の人も含めて約400人が参加した。現地に足を運びにくい村民向けに都市部で寄合と呼ぶ交流会も開いてい

る。「日本の原風景を残したい」と意気投合した。試行錯誤の中から「補助金に頼らずに古民家を残す手段」（丑田さん）としてたどりついたのが、古民家を村に見立てるシェアビレッジだ。年貢と呼ぶ年会費3000円を募集、建物を補修して

「年貢」3000円で第2の故郷

大学職員をしていたとき、交流イベントなどに積極的に開き、町外から訪れる人は年間約4000人に達している。

官民で人を呼び込むなか、武田さんは「人が集まる仕組みづくりを広げ、全国各地に「村」をつくりたい」と語る。全国の古民家を村に見立て、各地の都市住民が手軽に自分の田舎を持てるようにする。すでに西日本では、都市と地方の新たな連携を目指す。

3人に共通するのはIT（情報技術）を生かして発信する事業を手掛けたこと。「地域には単なる数的な人口増加よりも人材の質が重要」と強調。「新たな試みは地域の人の理解も不可欠。町内外に人材を確保するためにも、人を結びつけた拠点を今後も維持することが重要」と指摘している。

視察には23人が訪れた。地域づくりに詳しい鳥取大学の簡井一伸准教授は「地方には単なる数的な人口増加よりも人材の質が重要」と強調。「新たな試みは地域の人の理解も不可欠。町内外に人材を確保するためにも、人を結びつけた拠点を今後も維持することが重要」と指摘している。

秋田支局長 曾我真紀巳

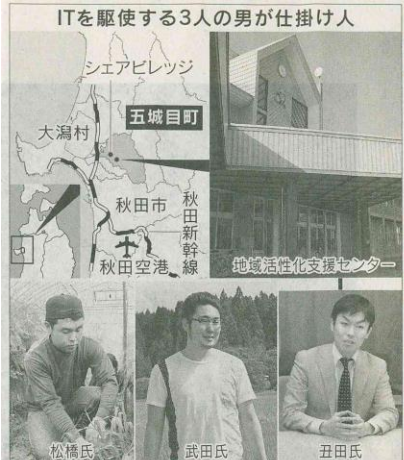
秋田支局長 曾我真紀巳

秋田支局長 曾我真紀巳

秋田支局長 曾我真紀巳

秋田支局長 曾我真紀巳

秋田支局長 曾我真紀巳



土着ベンチャーけん引

シェアビレッジを仕掛けた武田昌大さんは秋田市の若手農家グループ「トラ男」の呼びかけで、2013年に町の地でネットを活用したコメ販売会社を創業。都内で食のイベントなどを開催し、3000人以上の固定客を抱える。

丑田俊輔さんは学生時代に東京都千代田区のベンチャー支援施設の立ち上げに関わった経験を持つ。エクトを行っている。

人づくりは交流から

3人に共通するのはIT（情報技術）を生かして発信する事業を手掛けたこと。「地域には単なる数的な人口増加よりも人材の質が重要」と強調。「新たな試みは地域の人の理解も不可欠。町内外に人材を確保するためにも、人を結びつけた拠点を今後も維持することが重要」と指摘している。